

共に生きる社会へ

農福連携

水福連携



岩手の農林水産業は人口減少や担い手の高齢化によって、人手不足が深刻な課題となっています。

一方、福祉分野では、障がいのある方々の働く機会の拡充が求められています。

こうした課題を解決する取り組みとして、農林水産事業者と障がい福祉サービス事業者が労働を通じて連携する「農福連携」「水福連携」が注目を集めていることから、県は、連携のためのマッチン

グ事業を推進しています。

地域ごとにさまざまな取り組みが行われていて、農林水産業の振興や障がい者の自信・働きがいの創出に役立っています。

お問い合わせ

「農福連携」
 県庁 障がい保健福祉課
 電話 019-629-5448

「水福連携」
 県庁 復興くらし再建課
 電話 019-629-6931

農福連携

(株)菅野農園

就労継続支援B型事業所
 ワークセンターわかくさ



DATA
(株)菅野農園
 奥州市江刺伊手字隈川129
 電話 0197-39-2656

就労継続支援B型事業所
 ワークセンターわかくさ
 奥州市江刺岩谷堂字
 下惣田290-1
 電話 0197-35-3656

菅野農園代表・菅野千秋さんの声

「ワークセンターわかくさ」の利用者さんには、毎年5月中旬から12月中旬まで週5日、りんごの作業をお願いしています。重要な葉摘みや玉まわし、蜜入りセンサー作業も任せています。作業がうまくいかない時は「わかくさ」のスタッフを通して説明し、理解してもらいました。受け入れにあたり農園内にトイレを完備し、休憩場所も開放。作業効率が上がれば工賃を

アップしています。なかなか働きが見つからない中、福祉事業所とのつながりは大変ありがたいですね。

ワークセンターわかくさ生活支援員・伊藤菜穂さんの声

「菅野農園」さんから声をかけていただき、りんご園での作業は、もう5年以上続いています。常時3〜4人の利用者が作業にあたり、こちらで作業マニュアルやカレンダーを作って作業の間違いがないように工夫しています。利用者にとって働く喜びや責任感、地域とのつながりを持つ機会。工賃もいただけ、気持ちにハリが出ていると感じますし、「菅野農園」さんには本当に感謝しています。

障がい福祉サービス事業所

- ▶ 工賃向上や訓練のために仕事を探している
- ▶ 障がい者は定型作業を得意とする人が多い

連携のメリット

- ▶ 工賃・賃金の向上につながる
- ▶ 継続的に働いていくための訓練になる
- ▶ 利用者が社会とのつながりを持てる

農林 水産事業者

- ▶ 慢性的に人手が不足している
- ▶ 定型作業を行うことが多い

連携のメリット

- ▶ 人手不足を解消できる
- ▶ 長時間労働を軽減できる
- ▶ 生産力の向上につながる



農水+福 連携!

水福連携

元正榮北日本水産株式会社

就労継続支援B型事業所
 @かたつむり

DATA
元正榮北日本水産株式会社
 大船渡市三陸町綾里字石浜71-1
 電話 0192-42-3056

就労継続支援B型事業所
 @かたつむり
 大船渡市猪川町字中井沢97-1
 電話 0192-26-2134

元正榮北日本水産株式会社代表取締役社長・古川季宏さんの声

県の紹介で、2020年から「@かたつむり」の利用者さんを受け入れ、週3回、3人にあわび養殖槽の清掃などをお願いしています。作業の際、足元が滑らないよう整備し、安心して作業に集中できるよう心掛けています。今後の課題は、利用者さんと弊社従業員がコミュニケーションを高め、協力して働ける環境づくり。また、あわびの出荷作業中の人手不足解消に、利用者さんの就労人数を増やすことも検討中です。

@かたつむり施設長・大西智史さんの声

「北日本水産」さんとは、利用



者の対応や環境づくりについて常に連絡を取り合い、受け入れ態勢を整えていただきました。作業能力に合わせて工賃アップもあり、利用者も努力の成果が見えて意欲的になってきました。今後、他の加工業者さんとの連携も視野に、働く環境づくりを理解してもらいながら、障がい者の就労を広げたいと考えています。